①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・折れ線グラフをかくことができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・傾きから変化の様子を読み取る学習をしている。

≪学習問題≫

下の表は，けんたさんが調べた1日の気温です。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時こく（時） | 6 | 8 | 10 | 12 | 2 | 4 | 6 |
| 気　温（度） | 20 | 23 | 25 | 29 | 31 | 27 | 22 |

この気温の変化を折れ線グラフに表してみよう。

教材研究ノート№4-D-1

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

****

②見通し: 目盛りのとり方がすぐには分からない。

→　マスの数を見て全体を使うように目盛りを打とう。

②学習課題: 目盛りのとり方を考えて，折れ線グラフをかこう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究: 上下の差を考え，すべての点を打って，線を引いてグラフをかく。

まず全ての点を打って，線を引いてグラフをかく。

④共同追究前半（妥当性の吟味）

「出来上がったグラフで，よくわからないことはないか？」

→「上がり下がりが少なく，変化の様子がよくわからない。」

④共同追究後半（思考を深める）

「変化の様子がわかりやすいグラフにするにはどうしたらよいだろうか？」

→「マスを広くしたグラフにすればよい。」

「目盛りの単位を小さくすればよいのではないか。」

「どちらの方法もすごく長いグラフになってしまうぞ。」

　→「二重の波線（　）を使って，一部を省略したグラフのかき方もある。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・棒グラフをかいた時のように目盛りのとり方を変えると，変化の

様子がわかりやすいグラフがかける。

・波線を使えば，途中を省略したグラフをかくことができる。

⑥定着･活用問題

下の表は，ある小学校の入学者数を年ごとに表したものです。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 2002年 | 2003年 | 2004年 | 2005年 |
| 198 | 183 | 206 | 202 |

　これを折れ線グラフにかきましょう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・マスの広いグラフ用紙を配布し，具体的な操作活動を十分させる中で，長いグラフになって大変だということを実感させるようにしたい。

・単元全体を通して，折れ線グラフに表すことのよさや，目的に応じたグラフをかく工夫のよさを実感できるようにしたい。

【板書計画】